旧若杉小学校跡地の本格活用に関するワークショップ等の開催結果について

旧若杉小学校跡地の本格活用に向けて、以下のとおりワークショップ及びオープンハウスを開催しましたので、結果等を報告します。

1 ワークショップ等の開催結果

(1) ワークショップ

回数	日時	会場	参加者数	主な内容
1	令和6年11月2日(土) 午後2時～午後5時	旧若杉小学校 体育館	47名	・地域が抱える課題等を共有
2	令和6年12月15日(日) 午後2時～午後5時		40名	・7班に分かれて、跡地活用に向けたアイデアを意見交換
3	令和7年1月26日(日) 午後2時～午後5時		39名	・各班で跡地活用のコンセプト等を検討
4	令和7年2月23日(日) 午後2時～午後5時		38名	・跡地活用のコンセプト等に基づき成果物ワークシートを作成

(2) オープンハウス

回数	日時	会場	来場者数	主な内容
1	令和7年3月28日(金) 午後4時～午後8時	旧若杉小学校 体育館	53名	・ワークショップの成果物ワークシート等をパネル展示
2	令和7年3月29日(土) 午前10時～午後4時	荻窪タウンセンター 荻窪駅前北口広場	154名	・パネル内容等に対するアンケートを実施(※)

※令和7年3月15日(土)～4月6日(日)の間、区ホームページ上でも同様のアンケートを実施
(回答数：会場30件、区ホームページ24件)

2 ワークショップ等を踏まえた今後の取組

ワークショップの成果物ワークシート等に基づいて区が整理した4つのキーワード（誰でも気軽に立ち寄れる場、つながりが生まれる場、災害時に活用できる場、地域の子どもを育む場）を踏まえた上で、跡地の活用方法(たたき台)を2～3程度作成し、オープンハウスや意見交換会等を通じて区民の意見を聴取していく。

3 今後の主なスケジュール(予定)

令和7年6月15日 広報すぎなみ等で7月のオープンハウス及び意見交換会について周知

7月11日～12日 跡地の活用方法(たたき台)に対するオープンハウス及び意見交換会等を開催(意見交換会は12日のみ)

10月 跡地の活用方法(素案)に対するオープンハウス及び意見交換会等を開催

12月 跡地の活用方法(案)を区立施設マネジメント計画の一部修正(案)に反映

令和8年1月 区立施設マネジメント計画を一部修正

group 01 **コンセプト** 学び・文化

世代・アイデンティティを超えて文化・学び合い・安心を享受できる場

目指す将来像

- ①杉並の文化・歴史を学び継承する場
- ②子どもも大人も学び合い交流できる場
- ③誰でも立ち寄れる癒し・憩いの場

POINT

将来像①の活用案

- ・芸術、文化、平和、歴史について学べる展示ギャラリー
- ・演劇・音楽活動に利用可能な稽古場やホール

将来像②の活用案

- ・誰でも（個人・団体）使えるラーニングスペース
- ・コワーキングスペース（スタートアップ企業office）
- ・カフェスペースと一体的な学びの場

将来像③の活用案

- ・公園（緑地・ベンチ）
- ・公園と一体となった屋内フリースペース
- ・子ども食堂、カフェ
- ・防災倉庫

※公園、屋内フリースペース、子ども食堂などが災害時に防災拠点として活用できる

施設配置イメージ

group 02 **コンセプト** 多様な居場所・交流

私が私でいるための安心・安全なよりどころ

目指す将来像

「国籍、ジェンダー、障がいなどの属性に関わらず、老若男女誰一人取り残さない場」

「ダイアログ（対話）を通した、コミュニケーションを深める場」

POINT

建物…

- 様々な属性の人が安心して過ごせる居場所・知識や情報を発信し、コミュニケーションを深め、繋がることのできる場
- ▶知識を持つスタッフに気軽に相談できる場所をつくる
- ▶ラウンジや集金室を設け、学び合い・重たい学び合い・つながり合う場所をつくる
- ▶資料室や情報発信スペースなどの情報発信の場をつくる
- ▶それぞれの課題に対応する組織同士が横の繋がりを持てる場をつくる（個人に応じたきめ細やかな対応ができるように）
- 若者や中高生のための居場所
- ▶学習スペースを設けて勉強ができる場所を設ける
- ▶体育館のような運動できる場所を設ける（若者、中高生の居場所となるようにお金はかからないように!）
- 一人でもいられる場所
- ▶ラウンジを設けて、二人でも気軽にいける、目的が無くても行ける居場所となるようにする

広場…

- あらゆる人たちの居場所として
- ▶運動できる場所を設ける
- ▶皆が集まる場所を設ける
- ▶一人でもいられる場所を設ける

森を設けて、維持管理の活動を皆で行う中で交流が生まれていく、ということもあるのでは? …というアイデアもありました。

施設配置イメージ

group 03 **コンセプト** 子ども・交流・活気

地域のやすらぎの場となる、若者にも開かれたフレキシブルな居場所
～誰でも・いつでも・いつまでも～

目指す将来像

- 日中は園児や高齢者、放課後は小学生や中・高校生、休日は全ての世代など、様々な世代がシェアしながら、それぞれのやすらぎの場となる居心地の良い地域の居場所
- そこに行けば、出会える、つながれる、何かができる場所
- 中長期的にフレキシビリティのある施設として、世代やニーズの変化に対応する

POINT

オープンスペースの確保

- ・子どもがボール遊びや運動ができるスペースを確保
- ・憩いや涼み処となる芝生や樹木、水辺（じゃぶじゃぶ池など）を整備
- ・キッチンカーや商店街の出店などを配置して、季節や時期に応じて、にぎわいを創出

様々な人が集い、つながる場となる複合施設

- ・保育園や児童館を整備し、0～18歳までの世代に応じた子どもの育ちや居場所を確保。地域の人材や団体と連携して地域の子育て拠点に
- ・飲食可能なカフェスペース（ラウンジ）を設けて、おしゃべりや勉強、子ども食堂にも活用など、中・高校生を含め様々な世代や特性（学校になじまない子ども含む）に応じた子どもたちの居場所となり、交流やつながりが生まれる空間に
- ・多目的に利用できるフリースペースを設けるなど、様々な世代やニーズに柔軟に対応できる空間とし、新たな出会いや活動のきっかけに

利用しやすい、行きたくなる場所

- ・複合施設とオープンスペースの調和がとれ、開放感のあるオシャレな空間とし、誰でも気軽に訪れやすい場所
- ・地域の様々な人材・団体と連携して、施設運営にも地域が参画し、地域全体でかわかり・創り上げていく場所

施設配置イメージ

group 04 **コンセプト** 防災・広いオープンスペース

防災公園を!! 平常時はいろいろな用途に活用!

目指す将来像

- この地域の最大の課題である防災を視点に
- 地域の子どもたち～全世代が利用でき交流できる
- 公共ならではの施設づくり～わくわく楽しく有効活用できる～※駅近としては…平常時のイベントの集客good 帰宅困難者対応good

POINT

防災の視点

- 防災公園を!
- ・広場として…避難者受け入れ、かまどベンチ、キッチンカーを入れることも…テントも使える、仮設住宅も建てられる
- ・消防署出張所の誘致…消防署は防災にとって強い味方 ※ただし…消防署跡地は子どもたちのための施設に転用

平常時の活用

- ・広場として…子ども～全世代が交流できるように! フルオープン、フレキシブル ※特別な施設とすることで、専有化となつてフルオープンにならなくなる
- ・一部複合施設を建設…災害時は震災救援所となる(地域住民による運営)

施設配置イメージ

(例) 1F オープンなスペースとオープンテラス トイレ、調理場を備える(地域、子ども食堂も出来る)
2F フリースペース(遊べる!しゃべれる!多世代OK!)
3F (2Fと同じ)
地下 防災倉庫、駐輪場(スロー設置)

バーテーションを移動させて多用途に使える!
令和9年(2027年)4月1日 解体開始を!!

旧若杉小学校跡地の本格活用に関するワークショップの成果物ワークシート等

group 05 **コンセプト** 多様な居場所・防災
のんびり過ごせて、つながりが生まれる、いざという時の防災拠点

目指す将来像

- 日頃（日常）のつながりや施設が、防災時（非日常）にも活かされる
- 子どもから高齢者まで、気軽に集まり、のんびりと過ごせる
- ここで生まれた「つながり」で、地域の人材が、日常も非日常も、活躍し、支え合うことができる

●施設配置イメージ

建物(地上部、地下部)
 ・いざという時の避難場所

小さい子供が遊べるスペース
 (遊具、ベンチ、花壇)

オープンスペース
 (地下に防火水櫃)

■建物の用途■
 体育室、集会室 (100人規模)、調理室、自習室、音楽室、ラウンジ など

POINT

- 日頃使う空間、顔見知りがある空間を、地域の防災拠点に
 - ▶普段過ごしている場所、顔見知りの人がいる場所だからこそ、いざという時に、防災拠点として活用することができる
 - ▶スフィア憲章・スフィア基準に合わせた避難所の確保・運営
- 子どもから高齢者まで、自分のスタイルで、自由に過ごせる
 - ▶小学生・中学生が、のびのびと遊び、勉強することができる (おしゃべりできるラウンジ、身体を動かせる部屋、自習室)
 - ▶幅広い世代の人が、特に用事がなくても、のんびりできる (公園、ベンチ、カフェ、集会室)
 - ▶調理ができるスペースがあると、子ども食堂の運営や、調理教室の開催などで交流が生まれ、孤独、孤立の防止にもつながる
- 地域の人材が活躍し、新たな人材を生み出す
 - ▶「つながりを生む」をキーワードに、地域の人材が、自分たちの発想で活動ができる場所にしていく
 - ▶その「つながり」の中で、地域の活動が盛んになり、新たな地域の人材が育ち、活躍できるようにしていく
- 防災拠点には、そこを運営する「人」「人材」が重要
 - ▶「ここ」で活動する地域人材が、いざという時の人材にもなる (特に若い世代が関わられるようにしていくことが重要)
 - (日頃から、20代～50代の世代を呼び込んでいく仕組みも必要)

group 06 **コンセプト** 多様な居場所・防災
天沼みんなの家

目指す将来像

- 自分の家のように安心できる場所
- 日々のつながりが生まれる場所
- いざという時に地域の人々が頼ることができる場所

●施設配置イメージ

POINT
 ・建物を買戻しに配慮し、日よけができるようにする
 ・雨日には緑を植えて、散歩道を設ける
 ・オープンスペースは不足しない素材で整備する

POINT

- 1 世代や用途を問わず誰でも使える場所**
 - ✓ フリースペースを設けて、地域の人からリクエストがあった催しを開催できるように (平和に関するイベントなど)
 - ✓ 施設の1階はガラス張りにして、イベント開催時には開放して屋外のオープンスペースと一体で活用できるように
 - ✓ 図書館の本が貸出・返却できたり、壁が移動する自習室も完備
 - ✓ 重症心身障害児通所施設「わかば」のような福祉施設を入れて、災害時には利用者がそのまま待機できるように
- 2 地域の人々が集い、みんながホッとできる場所**
 - ✓ 屋外のオープンスペースではキッチンカーが来たり、お祭りを開催したり、楽しむ場所に
 - ✓ コンセントの設置や低額で飲み物が買えるようにして、子どもたちの居場所になるように
 - ✓ 1階のカフェスペースでは、子ども食堂や認知症カフェを実施
 - ✓ 建物の周りには散歩道を設けて、散歩道沿いにはベンチを設置し、公園を見渡しながらおしゃべりが楽しめるように
 - ✓ 屋上には遊具のある公園、地下には駐輪場を設ける
- 3 いざという時に震災救援所として機能する防災拠点**
 - ✓ 震災救援所として活用できる体育館や災害時にも使えるシャワー室を整備
 - ✓ 地下には応急給水櫃として機能する貯水池や核シェルターを

group 07 **コンセプト** にぎわい・交流
「つながる・育む・楽しむ天沼」 ~子育てを中心とした地域活性化に根差した天沼施設~

目指す将来像

- 地域のつながりを育み、楽しむにぎわいの場所
- 地域の子どもをみんなで育む多様性に富んだ場所
- 災害時にも活用できるみどり豊かなオープンガーデン

●施設配置イメージ

施設配置イメージは一例です。他にも、複数のアイデアがありました。

POINT

- つながりを育み、楽しむにぎわいの場所
 - ▶地域のコミュニティ施設とする
 - ～気軽に立ち寄ることができる、互いの顔が見える場所～
 - ▶多用途に活用する
 - 例：ラウンジにテーブル、ソファを設置し交流広場として活用、アウトコート (子どもは割引で子ども食堂の代わりに)、コワーキングスペース・チャレンジショップ、集会室、展示スペースを活用した企画展
 - ▶体育館を整備し、多目的に活用する (収納棚、可動ステージ・席などを設置)
 - 災害時には建物を利用して避難者の受け入れを行う
- 地域の子どもの育む
 - ▶子どもを安心して預けられる、遊べる環境を整備する
 - 保育園・児童館 (中・高校生)・学習クラブの設置
 - ▶障害の有無や国籍を問わず、多くの方が子どもや地域と交流できる環境を整備する
 - 福祉作業所・アイプラザ・多文化キッズサロン など
- 歩いて楽しいオープンガーデン
 - ▶オープンガーデン・遊歩道を配置する (並木道・天然芝・屋上テラス)
 - ▶涼を配置する (パーゴラ・オーニング・じゃぶじゃぶ池 など)
 - ▶災害時は、防災拠点として活用できる工夫を行う (避難スペース確保、ヘリコプター着陸場所、雨水浸透槽・防災倉庫・貯水櫃の設置等)
- 区財政に優しい施設・運営
 - ▶民間のアイデア・投資を促す (東京衛生大イベント病院との連携等)
 - ▶PFI事業、森林環境譲与税の活用

(オープンハウス等のアンケートでの主な意見)

- ・全員が利益を享受できる施設ができると嬉しい。
- ・駅に近く、住宅密集地区でもあります。防災への備えは必須。
- ・子どもの居場所を考えてあげることが大切だと思います。
- ・広さを活かしたオープンな建物に。
- ・災害時の拠点となる場所になることを希望します。
- ・0～18歳の子どもと子育て世代が使える場所。
- ・屋外のオープンスペースはできるだけ広く取ったほうがいい。
- ・子どもたちが利用できる、天候に左右されない安全に配慮した施設になって欲しいです。

※成果物ワークシート及びアンケートの全文は区ホームページに掲載しています。

区ホームページ：<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s002/1346.html>